

「平和学習を地域学習として」

～家族と地域から戦争を知る～



日本遺族会の平和の語り部事業 各地における活動例

講話型



親子への講話、映像視聴(大阪府)



小学生への講話(石川県)

対話型



中学生が戦没者遺族の体験を聞く対話集
(大阪市東成区戦後70年記念事業)



大学生との座談会(本部)

体験型



高校生との慰霊碑清掃(高知県)



学生との自由研究(兵庫県)



慰霊碑の前で語り部(静岡県)



エコろうそくづくり(山形県)

自己紹介

大東 潤(おおひがし じゅん) 旧姓:藤崎(父方)

1982年10月20日生(42歳)

野畑工房 代表

動画撮影、スチル撮影、デザイナー



神戸市北区地域を中心に、

2011年頃より、主に地元学校園等での平和学習の講師や、
戦争体験の記憶の継承活動に取り組む。

・日本遺族会 平和の語り部アドバイザー

・兵庫県遺族会 青年部 副部長 戦没者(曾祖父:大東勇) 曾孫世代

ご兄弟の墓碑



町内に点在する戦没者墓碑を全て調査
戦没地や没年月日が不明な方の特定を行った。

遺品の収集と調査、平和学習での活用



戦死者名簿:ビルマでの抑留



箸もないシベリア抑留



寄港する都度送られた軍事郵便



シベリア抑留 唯一の持ち物



持ち物だけの帰郷

神戸市北神地区戦没者慰霊碑所在地

平成 27 年 8 月 1 日調査
製作：大沢町遺族会 藤崎潤



大沢 忠霊塔
大沢校や町内を
眼下に望む『やす
らぎの丘』にある。
昭和 19 年 3 月 21 日
竣工



上淡河 忠魂碑
石峯寺の境内
本堂正面右手
大変優美な忠魂碑
大正 4 年 11 月建



下淡河 忠魂碑
淡河小学校校内
学校児童を見守る
様にある。
大正 4 年 11 月建



山田 忠魂碑
六條八幡宮境内
去年より慰霊祭が
復活しお祀りされて
いる。
大正 4 年 11 月建



御英霊(柱)	備考
大沢町	85
長尾町	65
八多町	177
道場町	172
有野町	173
有馬町	110
上淡河	112
下淡河	152
山田町	234
本区	
合計	1280

備考
『ハ多町あんなこころな』頁 15,16 には 165 柱とある
上・下淡河, 船々の御英霊数を記載
小瀬に忠魂碑があるとの事。増える可能性もある
旧山田町の一部。御英霊数が不明。現在調査中



長尾 慰霊碑
現長尾幼稚園のグ
ランド 園児や旧小
学校生を見守るよう
にお祀りされている。
昭和 28 年 5 月建



道場 忠魂碑
塩田八幡宮山門
手前 GHQ の破
壊を避ける為数度
移設される。
昭和 14 年 5 月建



八多 旆忠碑
八多校裏の極楽
寺境内 学校園や
八多町を望む様
にある。
大正 5 年 12 月建



有野 慰霊碑
JA 兵庫六甲有野
敷地内 清掃が行
き届き撮影日花が
手向けられていた。
昭和 27 年 5 月建



有馬 忠魂碑
湯泉神社境内本
社右手 遺族会
が無いが同司宮様が
お祀りしておられる。
大正 13 年 10 月建

出征兵士や妻、遺児、地域の方々への聞き取り



大家光男さん
満州の混乱と
シベリア抑留



幸田貢さん
戦争を今に伝える
野末の露
ビルマへ出征

出征兵士の方々をはじめ、遺児の方々から、戦中戦後の家族との思い出や暮らし、戦没者に対する言葉などの聞き取りを行ってきました。

地域の戦争の記憶が散逸する前に 次の世代に継承する為



年表：戦時禍の婦人会日誌より制作した
（徳島県遺族会の語り部の会にて）



冊子：戦士や遺児の方々の証言等
地域の戦争体験を取りまとめた

継承活動を始めたきっかけ

- ①曾祖母との死別
- ②地元慰霊祭への参列
- ③遺児や地域住民の方々との出会い



大東 勇(おおひがし いさむ)
曾祖父(ひいおじいさん)

大正3年10月11日
昭和20年3月11日 没

東部ニューギニア、現在のパプア
ニューギニアで亡くなるが
戦没地(せんぼつち)が分からず、
遺骨は今も戻って来ていない。

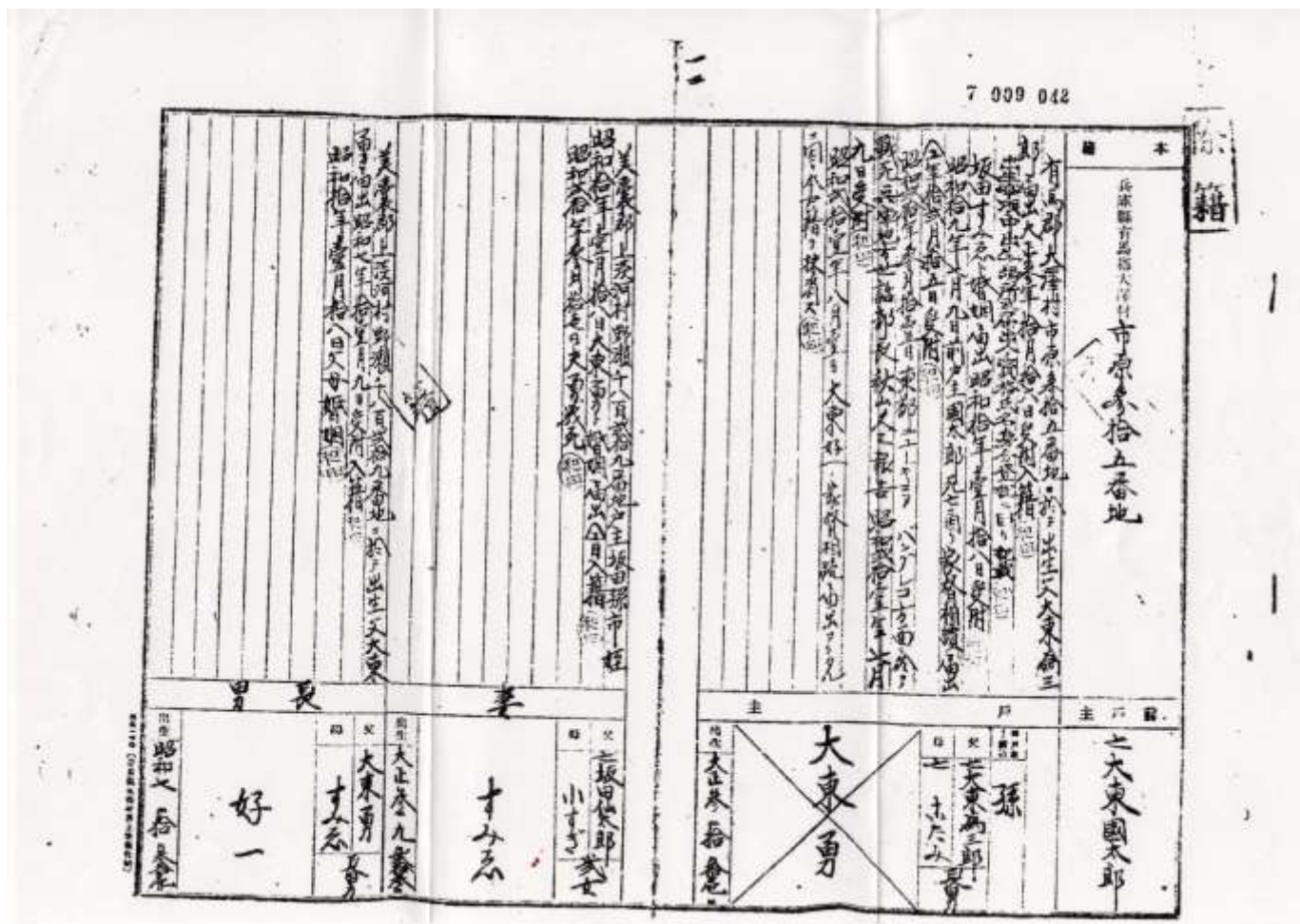


大東 すみゑ(おおひがし すみえ)
曾祖母(ひいおばあさん)

大正3年5月23日 生
平成20年6月14日 没

私を含め4世代で暮らし、
戦時下の大沢町について聞かされ育った。

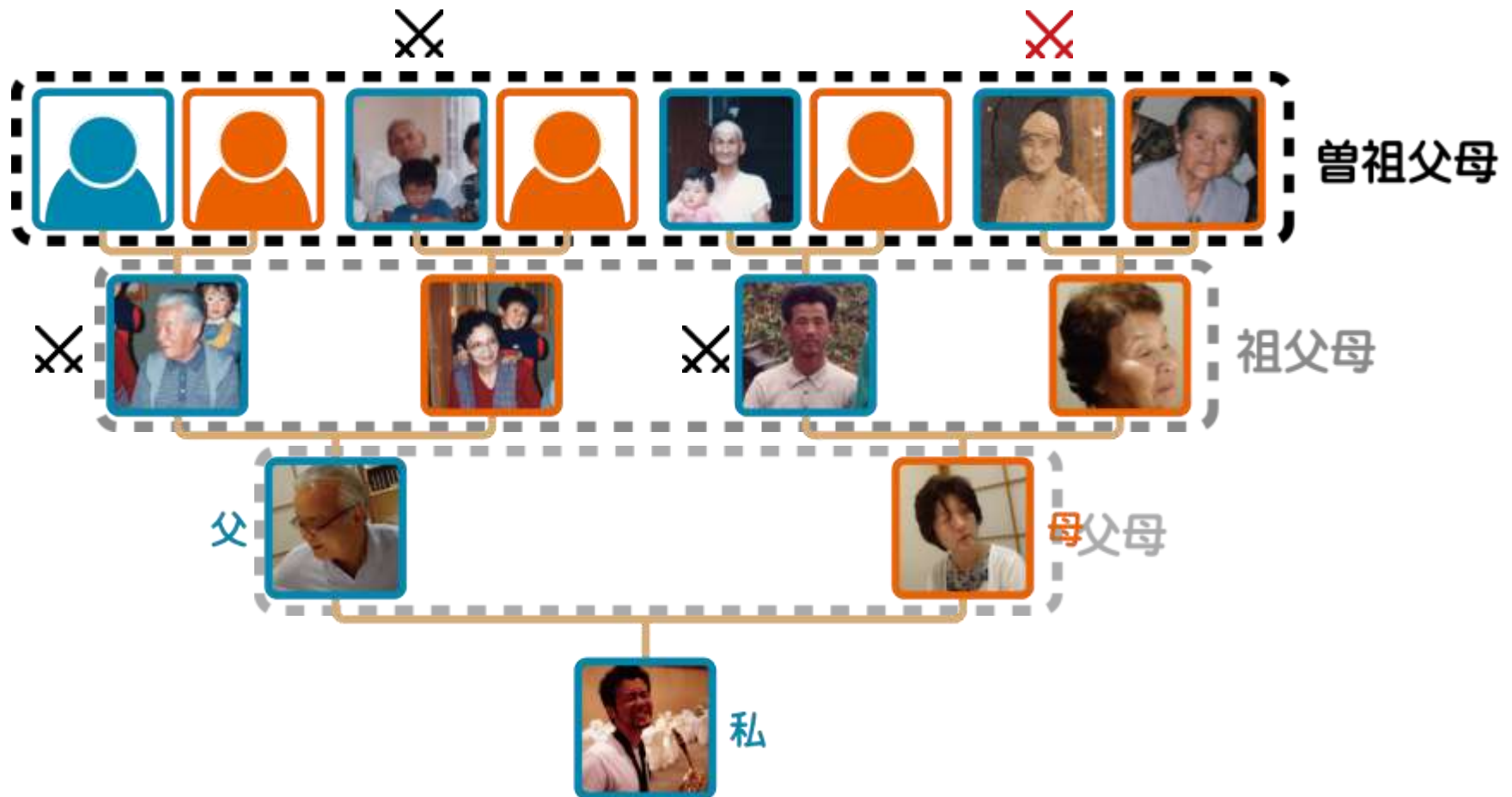
継承活動を始めたきっかけ①～曾祖母との死別～



お婆さんが亡くなって取り寄せた戸籍

家族の事を何も知らない自分を思い知らされた

私に繋がる、おじいさん おばあさん達



継承活動を始めたきっかけ②～地元慰霊祭への参列～

参列されている方の『減少と高齢化』を目の当たりにし

「このままでは、慰霊祭が無くなる」と、強い危機感を感じる



継承活動を始めたきっかけ③

継承してきた方々との出会いと、収集された遺品や証言集



慰霊祭参列を機に、地元遺族会の会長さんや遺児の方々
地域住民の方との出会いがあり、多くの事を学ばせて頂いた。

慰霊祭は平和学習の一つの機会

慰霊祭などの催事、慰霊碑などの史跡は、
薄れる記憶や歴史を留める地域の記憶装置



宗教形式的な慰霊祭



継承歌をはじめとした
人の思いや言霊を載せた慰霊祭

平和教育という枠やお題目をわざわざ設定しなくても、
慰霊祭に参列することで、先の大戦の記憶を留め、次の世代へと継承することが出来る。

学校教育だけではなく地域における
平和教育のフィールドワークそのもの

平和学習の現状と課題

教育現場やメディアで取り上げられる戦争

その多くが戦争の悲惨さ、
例えば原爆投下が広島市民に襲い掛かった惨状や、
神戸空襲による死亡者数等といった、
『大きな単位での戦争の悲惨さ』に触れる事はあっても

戦時下を生き抜いた自分の祖父母達である
『身近な家族の息遣い』について取り扱う事は殆どない

受け手である学生や若い世代にとって、
戦争は悲惨ではあったが、モノクロの遠い遠い時代としてしか認識されず、
自分事として捉えにくい。どうしても他人事となってしまう。
故に、戦争を身近な出来事として捉えにくい。

戦争を知る事は家族を知る事から

まず『自分達の家族』を知る事で、そこから戦争をより身近な出来事として捉える『切っ掛け作り』

※ポイント ・先の大戦は、遺族かどうかという事とは関係なく、皆さんの家族、自分たちのお爺さんやお婆さん達について学び考える事
全ての日本国民を巻き込んだ戦禍である事。

家族や地域の人に聞いたり、調べたりして、それをベースとして戦時中にあった『戦地での事』、『地域での事』、『自分達の家族の事』について知り、戦争をより身近な事として考えてみる



平和学習と地域学習

慰霊碑内の納骨堂の見学

※どこの地域でも
出来るモノではありません



神戸市立大沢小学校6年生

骨壺の解説

※どこの地域でも
出来るモノではありません



学校を取り巻く社会環境の大きな変化

- 学校と地域との関係が希薄化
(PTA解散・学校運営協議会等の縮小)
- 教育現場の先生が地域の話を知りたいのに、
そもそも誰に話を聞いて良いのか分からない。
- 地域にその受け皿がない
(高齢化や過疎による人材・情報の散逸)
- 歴史や文化を継承する事の意義を多くの人を感じ無くなった
- 地域コミュニティの希薄化、コロナで希薄化が加速
- 自分達の家族や地域について、
家庭内で考え知る機会が無くなった(核家族化)

幼くして、親を亡くした遺児の方々は 火垂るの墓の登場人物と同年代



戦後80年 日本遺族会 洋上慰霊





慰霊に終わりはない